

県政報告

守屋てるひこ県議 小田原

県西部テーマに一般質問

④

小田原市区選出の守屋てるひこ（輝彦）県議が昨年12月の県議会定例会で一般質問に立ち、県西部に密着したテーマで黒岩祐治知事ら県幹部に答弁を求めた。本紙では「紙上県政報告」として、詳しい内容を連載する。（全5回予定、随時掲載）

小水力発電

文命用水で実証実験

結果考慮し導入検討

（質問）

再生可能エネルギー源の活用も重要だと考  
えられています。県では、「水  
には太陽光、風力などが



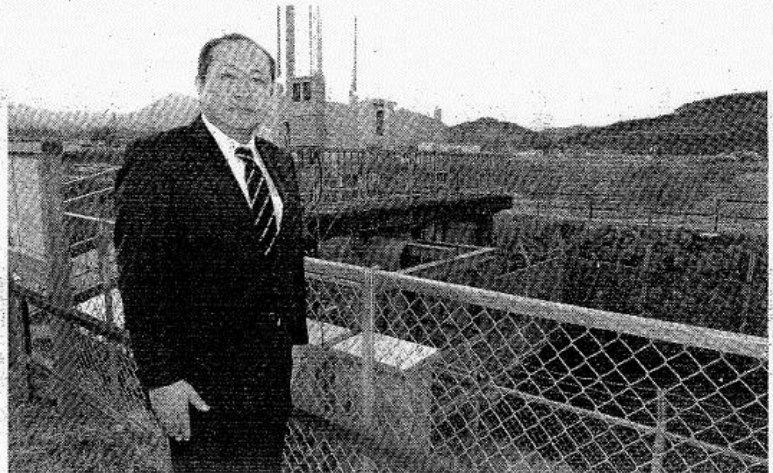
県議会で一般質問する守屋  
てるひこ議員

ありますが、豊かな水資  
源の活用も重要だと考  
えられています。県では、「水  
には太陽光、風力などが

川は水のさかである  
こと、まさに、「神奈  
川は水のさか」である  
こと、まさに、「神奈  
川は水のさか」である

り、その運用を開始して  
から8ヶ月が経過しま  
した。文命用水に限ら  
ず、県西部には多くの  
水資源があり、農業用水  
を活用した小水力発電  
設備設置の可能性はか  
なりあるのではないかと  
期待しているところ  
です。

事業として酒匂川流域  
の文命用水に、発電出力  
10キロワットの設備を  
設置し、固定価格買取制  
度を活用して電力会社  
に売電することで、発電  
事業の採算がとれるの  
か検証するための試験  
を始めています。



小水力発電の実験が進められている文命用水（開成町）

これまで、5月から9  
月までのかんがい期  
に、発電設備に流れ込む  
流量が約4割減少して  
も、予定していた発電量  
を確保できることが確  
認されました。

業用水として利用され  
ており、昭和8年に完成  
した文命用水は2市3  
町の農地を潤し、県内有  
数の稲作農業を支えて  
います。

りました。  
県内の小水力発電  
は、流れる水の落差が大  
きく、かつ、年間を通じて  
水の流量が安定して  
いる河川や水道施設等  
に導入されています。

作物の生育状況等に合  
わせて、かんがいに使う  
が発電機に入って故障  
するなど、維持管理上の  
課題も明らかになって  
きました。こうしたモデ  
ル事業と併せて、相模川  
流域と酒匂川流域の主  
な農業用水を対象に、  
小水力発電の導入可能

（知事答弁）

次に、農業用水におけ  
る小水力発電の導入促  
進について、お尋ねがあ  
ります。

一方、農業用水は水の  
落差が小さく、また、農  
業用水は水の  
落差が小さく、また、農  
業用水は水の

そこで今年（2013  
年）の3月から、モデル  
小水力発電の導入可能

性  
の調査も行っていま  
や、維持管理上の課題な  
慮して、適地の選定等  
を行い、農業用水を管  
理・  
利用している土地改良  
区等と協議しながら、小  
水力発電の導入を検討

性の調査も行っていま  
や、維持管理上の課題な  
慮して、適地の選定等  
を行い、農業用水を管  
理・  
利用している土地改良  
区等と協議しながら、小  
水力発電の導入を検討

現在、これまでに行っ  
た現地調査の結果をも  
とに、発電事業の採算性  
ル事業の検証結果も考  
慮して、適地の選定等  
を行い、農業用水を管  
理・  
利用している土地改良  
区等と協議しながら、小  
水力発電の導入を検討

性  
の調査も行っていま  
や、維持管理上の課題な  
慮して、適地の選定等  
を行い、農業用水を管  
理・  
利用している土地改良  
区等と協議しながら、小  
水力発電の導入を検討

（※続きは15日付以降  
に掲載）